

第2回福岡市データ活用推進有識者会議 議事要旨

1. 日 時：令和4年11月22日(火) 11:00～12:00
2. 場 所：福岡市役所本庁舎 1502会議室 (Web会議併用)
3. 出席者：荒牧座長、石丸構成員、小笠原構成員、楠構成員、西内構成員、
日置構成員、久留構成員
事務局：福岡市総務企画局DX戦略部
河津サービスデザイン担当部長、橋本DX戦略課長

4. 議事概要

- (1) 開 会
- (2) 議 事

①「福岡市データ活用推進計画」の改定について

(事務局より第1回会議の振返りと「福岡市DX戦略」(仮称)素案について説明)

質疑・意見交換

【楠構成員】名称変更も含め意欲的な内容を提示していると感じた。令和8年度時点では「DX」という言葉が古くなっている可能性はあるため、そこは福岡市で判断が必要だと思う。デジタル変革について、デジタルよりもトランスフォーメーションが重要になってくると思っている。その場合データ活用推進よりも範囲が広くなり、優先順位も変わってくる。例えば業務改革であったり、住民サービスをどう変革していくのかという部分の比重が高くなり、自治体システム標準化後の諸々の住民サービス改革という部分も視野に入ると思う。

【久留構成員】「6 推進項目と取組みの方向性」に記載がある5つの項目ができれば良いと感じる。その中でも1番目の「くらしのDX」に関して、やはりデジタルについては格差がある。スマホやパソコンを使いこなす方がいる一方で全く使えない方もいる。こうした現状を見た時に誰一人残さずに情報を伝えるということが一番重要だと考える。今後進めていく中で初めの部分は行政などで、きめ細やかな対応や支援が必要である。また中小企業のDXの支援を盛り込んであるが、なかなか通常業務で手が回らない、情報が入ってこないという現状もあると聞いている。多くの企業は大なり小なり経済団体に入っているため、そういう団体と連携して情報を送るなどして推進していくのも一つの方法であると思う。

【石丸構成員】名称が「福岡市DX戦略」に変わることによってスコープが広がるのではないかと考えている。DXという部分が主体になると、市役所のDXというような部分が中心になっていくのではないかと思う。その場合、福岡市が推進する様々な分野があり、その先のくらしやまち、産業との関係性の中でこういうことができるという建付けになると思う。福岡市がどこに注力して、その周りにいる様々な関係者とどう関わっていくのかをもう少し設定していく必要があると感じた。また「6 推進項目と取組みの方向性」2番目の「まちのDX」に関して、市民や企業、NPO、大学などとの連携・共働という意味でも関係者とやっていく必要があると思う。「まちのDX」というよりも福岡市として大事にしているところという部分で例えば「5 目指す姿」と「6 推進項目と取組みの方向性」の間に共通的な価値観、考え方を示した上で取組みについて記載した方が分かり易いのではないか。

【事務局】「目指す姿」から各分野に及んでいるところの間を埋めるという部分と、福岡市が総合的に全部進めていくのかについては、優先順位や重点項目など直近で取りかかるべき内容があると考え。また、分野ごとになったことでバラバラになってはいけないということも考えており、地域でのまちのDXに期待している各団体との連携・共働については今後も議論が必要であると考えている。

【小笠原構成員】これまで推進してきたことに対して、今の技術であれば現状をもっとよくできないかという見直しはやった方がいいと思う。これまでやってきたことはその時においては最適解であったかもしれないが、今ならどうできるのかという部分を見直すのは重要だと考える。また、推進体制について、知識や経験を持つ専門的なポジションが必要はないか。それから、データを軸に始まった話であることも踏まえ、九州という土地を生かしたデータセンターの誘致などインフラを強化する視点があるのかが気になった。

【日置構成員】データというものは、生み出そうとして出て行くのではなく、基本的には行政サービスや、諸々の産業活動から出てくるものなので、それと合わせて、DX戦略という形でまとめていくという方向性は良いと思う。行政サービスに関しては市が主導する部分であるが、まちづくりや産業振興という部分でどんな形で市が推進していくのか、そこに関係してくる住民や企業とどういったポジションで関係を築いていくのかは、少し落とし込んで議論していく必要があると思う。

また「7 計画の推進に当たって」の中で、法律や条例に基づく適切なシステムとあるがシステムという用語が狭い意味に感じた。

【西内構成員】 今後進めていく中で他自治体との連携という部分で、周辺の自治体とデータフォーマットを合わせるであるとか手続きのプロセスが同じであるといった共通性といったことも大事なポイントになってくると思うが、市としては何か検討しているか。

【事務局】 第1回会議の際に意見をいただいた、ワクチン接種における職域接種のように、行政の垣根を越えてサービスが受けられると便利になるというイメージは持っている。

【小笠原構成員】 職員同等レベルでコミットするレベルのエンジニアやデザイナーが本来必要ではないかと思う。また、全体としてのリーダーシップ、主としてどうトランスフォーメーションするかデザインを考えていくときのリーダーについても検討してみてもどうか。

【荒牧座長】 九州全体でもデータを活用しようという動きもある中で、福岡市がリードできるように、またその際の推進体制が行政なのか民間のかなど含めて検討していくと良いと思う。また、計画の名称については、行政が行っているDXとして幅広く、全体を見るということで「福岡市DX戦略」という名称で良いと思う。また、「5 目指す姿」と「6 推進項目と取組みの方向性」の間にテーマや目的を具体的に検討すると良いと思う。

【久留構成員】 計画改定後の進め方はどのように検討しているか。KPIの設定やPDCAはどのようにするのか。デジタル化に関するスピードは速いと思うが、きめ細かく確認していかないと、取り残される人がいたり、伝わっていなかったりということが出てくると思うので、どのようにチェックするのか確認したい。

【事務局】 施策ごとに工程を示す予定である。また年度単位での取組みに関しては、今回集めた施策で終わりではなく新たな施策にも取り組んでいきたいと考えている。

【久留構成員】 外部の委員会のような形でチェックするものではないのか。

【事務局】 内部で整理していく予定であるが、今回ご指摘があったように、上手くデザインしていく必要があり、そういった役割の方とどう関わっていくかが重要であると思う。またデータ連携基盤やスマートシティを推進する上で、民間企業など様々なステークホルダーと推進体制を組んでいく必要があり、そこでの関わり方を含めながら議論を進めていく中で、「福岡市DX戦略」の中身や方向性が肉付けされていくところもあると考えている。

【久留構成員】 市民がどう思っているか、どう感じているかという視点が重要である。本当に市民に浸透しているかアンケート等を用いて収集することも検討したほうが良い。

【事務局】 今後、基本計画というものを作成していく中で、広く意見を収集する方向で考えており、特に若い方の意見を取り入れたいと考えている。今後4年間の活動の中で様々な話が上がってくると考えており、単にDX戦略という所に留まらず福岡市としてどのように進んでいくかという意見も積極的に取り入れたい。

【楠構成員】 「6 推進項目と取組みの方向性」の(1)(2)と(3)(4)のトーンが異なるように思う。「(1) 暮らしのDX」「(2) まちのDX」とひらがなで記載されているのであれば「(3) しごとのDX」のようになるのではないか。(4)(5)は行政など舞台裏の話になるので、推進項目の平仄の取り方は工夫した方が良いと思う。また住民サービスといった部分については、より便利でノンストップ行政にしていくという所は明確になっていると思うが、スマートシティの取組みやデータ連携基盤については、どう世の中の役に立つのか社会的にも模索的な部分があると感じている。いわゆるゴールとして、住民の利便性にフォーカスして明確に目指すべき部分というものと、技術開発や産業振興といった別のところに目的が置かれているものに関しては、どこかで区分けを行った方が、KPIなどを含めて立てやすいのではないかと感じた。

【石丸構成員】 DX戦略のスコープやスマートシティの推進など、福岡市としてどう進めていくのかという部分を計画的なものとの関連性を含めて明確にできるとよいと思う。また、推進体制を含めて、DXをどうデザインしていくか、どう技術

的な担保をするかという中で、庁内を含めて包括的に考えるべきことが多くあると感じた。

【小笠原構成員】 取り残さないというのは重要であるが、取り残さないことが目的化しないように気を付けてほしい。「福岡市DX戦略」で掲げる理想や技術的なものがあり、そこを目的とした上で取り残さない手段やプロセスを行政として追及していくべきと思う。

【久留構成員】 DXを推進していくことによる福岡市の明るい未来、良い未来というものを描けると良いと思う。

②今後のスケジュール

事務局より今後のスケジュールについて説明した。

以上